



MS-06R-2 ZAKU II


PRINCIPALITY OF ZEON J.RIDDEN'S CUSTOMIZE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE MS-06R-2 ZAKU Ver.2.0



ジオン公国軍
宇宙空間戦闘用高機動型モビルスーツ
MS-06R-2 ジョニーライデン専用ザク Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

MS-06R-2 ZAKU II 



ジオン公国軍
宇宙空間戦闘用高機動型モビルスーツ
MS-06R-2 ジョニーライデン専用ザク Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

BANDAI 2008 MADE IN JAPAN ※写真の完成品は、塗装してあります。



0156535

ジオン公国MS開発史

宇宙における公国軍のアドバンテージ

ジオン公国が開発したMS（モビルスーツ）は、本来が宇宙での運用を目的とする兵器であった。地球侵攻に並行して驚異的な適応拡散を達成したMSは、再び、生まれ故郷とも言える宇宙での更なる適応進化を始めたのである。

空間戦闘用MSの更なる高性能化を求める声は、ベテランパイロットらを中心に広がっており、技術陣も高性能機の開発を提言していた。首脳陣もその必要性を感じていたことは言うまでもない。MS-06Fの基本設計や生産ラインにほとんど手を加えることなく機能強化が施されたMS-06Sは、基本的に06Fの規格内におけるハイエンドバリエーションであった。操作性を優先したF型に比べ、多少扱い難いものの、機動性が大幅に向上したS型は、高機動型のR型に移行する寸前の機体であったとも言える。むしろ、R型の開発を見越した上で、そのための部材が試験的に採用され、データ収集に供されていたとする説もある。そのR型の開発が始まったのは、一年戦争の勃発からおよそ一ヶ月後のことであった。これは、南極条約の締結に伴い、戦争が長期化することが避けられない状況になったためだとされており、宇宙空間における戦力強化の一環として実施されたものであった。

MS-06 ザクIIは、当初より高い汎用性の獲得を目標として開発されていたが、その「汎用性を排除して空間戦闘用に特化」した機体がR型なのである。もともとMSは

宇宙空間における斬新な機動兵器としての出自を持つため、ある意味で先祖傳りと云えないこともない。地球侵攻作戦の実施に伴い、実際に重力の井戸である地球環境に特化した局地戦用の機体の開発に関しては、実際に運用する事で初めて明らかになった問題も少なくなかった。コロニーにおける疑似重力や各種のコンピュータシミュレーションはしよせん机上のものだったのである。しかし、宇宙空間はジオン公国の本拠地である。本国の重工業施設のほか、ソロモンやア・バオア・クー、グラナダのそれぞれの工廠や実験場において積み上げられたノウハウは膨大であり、しかもすぐさま「実地」に「トライアル」を行う事が可能であった。ザクIIは元々、投入環境に対応した改造を施す事で、あらゆる環境に適合することができるよう設計されていた。無論、空間戦闘能力はデフォルトのスペックであったが、さらなる機動性の改善と宇宙空間での戦闘能力強化のためには、基本設計に手を加える必要が出てきた。すなわちR型は、J型が地球環境に適合するため、空間戦闘用の装備を「差し引いて」特化したとは全く逆の発想で開発されることとなったのである。

公国軍のMSの進化・発展はトライアルの結果でもある

地球侵攻作戦の進展に伴い、公国軍は地球連邦軍の複合施設であるカリフォルニアベースなどを制圧。地上でのMS開発・生産の拠点を手に入れた。これにより、空間戦闘用MS開発が進捗することとなったのである。

南極条約の締結によって長期戦を余儀なくされた公国軍は、連邦軍の反攻を牽制するとともに、鉱物資源の確保などを企図して地球侵攻作戦を敢行する。MSの優位性は地上戦においても発揮されたが、戦線の維持と補給路確保のための戦力投入は公国軍の兵力を拡大領域に拡散させた。06Jをはじめとする地上用兵器の生産は24時間態勢で行われ、ジオン公国の工業生産能力のほとんどが振り向けられていた。連邦軍の地上戦力の封じ込めと資源確保は、国力の無いジオン公国にとって必須の要件でもあった。その一方で、すでに連邦宇宙軍唯一の拠点を指すルナツーを実質的に封鎖しているという状況もあって、空間戦闘用の高性能機を新規に開発する懸念の優先順位は自然と低くならざるを得なかった。だからといって研究が停滞していた訳ではもちろん無く、地上用MSの開発と並行して研究は継続されていた。それは主に、量産機であるMS-06 ザクIIそのものを改造するという形で進められていた。また、そのような運用が可能ないように設計されていたのがMS-06である。工業製品は一般に量産されることで歩留まりと品質が向上する。その製品を雛形として、更に必要な改造を施し、局地戦に対応させたり基礎設計を改善させた上で、必要とあれば実戦投入も行い、さらにそれをフィードバックさせる



MS-14S (高機動型ザク)

ことで、ザクIIは様々なバリエーションを生み出す事が可能だったのである。公国軍のMS開発にとって、その雛形を「実際にトライアル」に供することが肝要であり、ザクIIの量産性は、その意味でも有利に働いていた。それが兵器である以上、開発の際の試作機=トライアル機の一定量の損耗は織り込み済みでもあった。地上の制圧地域が拡大し、各種地上用MS生産の移管が進捗することで、宇宙での生産設備に余裕が生じ、空間戦闘用機の開発も可能となっていったのである。そういった「開発に供するトライアル機」の存在は、MS-07 GF、MS-09 ドム、さらに、MS-14 ギルググなどの開発においても踏襲され、開発期間の短縮と豊富なバリエーションを生む土壌となっているのである。

MS-06R-2 ザクII 高機動型

06系の高性能化（空間戦闘の特化）は、ザクを一部のエースパイロット用のカスタム機にしていたのである。

MS-06R-2は、一年戦争期に「量産機」として開発されたザクの最終型とされている。F型の改良機として生産されていたR型は、稼働条件が複雑ではあったものの、極めて高性能でもあったためエースパイロットには歓迎された。しかし、製造コストが高かったせいでF型のような大量生産には至らず、調達に非常に困難であった。ベテランパイロットの間では「連邦軍の戦艦を沈めるよりもR型を手に入れる方が難しい」とまで言われていた。さらなる改良が加えられたR-1Aは、前線における燃料補給などが簡便なことから多くのパイロットに愛用された。稼働期間が短く、生産数も100機未満と少ない割に、大きな戦果をあげている。「黒い三連星」や「ソロモンの白狼」シン・マツナガなど「エースパイロットの乗機」として「R型」の機体は広く認知されている。そのR型に更なる改良を施した機体がMS-06R-2である。

開戦から一ヶ月に及ぶ初期の戦闘を経て、数ヶ月あまたの膠着状態が続く中、連邦軍MSの出現もあって、公国軍が策定する戦略においては「本土防衛」も検討され始めていた。そして、軌道上の戦力拡充や月面の拠点確保、周辺宙域の制空権確保など、抜本的な戦術転換が図られることとなった。MSの開発に成功した連邦軍が反攻に転じようとする企図している事は誰の目にも明らかだったからである。その一環として、空間戦闘用の次期主力MSの調達が喫緊の課題とされ、急速コンペティションが実施されることとなった。すなわち06R-1および06R-1Aは、あくまでエースパイロット用のカスタム機扱いだったのである。ジオニック社が提案した06R-2は、06F型の後継機としてツィマツ社が提案したMS-09R リック・ドムと争ったが、コストや生産性に問題があったため、09Rの量産が決定した。単純にスペックのみで比較すれば06R-2の方が優れていたものの、06R-1以上にシビアな稼働条件やコストなどが問題視された。一方のツィマツ社は、多少の調整は必要としながらも、提案された時点で既に生産設備やパーツ転用の工程までがロードマップ化されていた。09Rに軍配が上がったのもやむなしであった。09系の生産設備は宇宙にも多く存在し、そのほとんどが09Rの生産に転用可能であったという経済的な事情も大きく影響している。実際には、この決定に関しては両社とも納得づくだったと

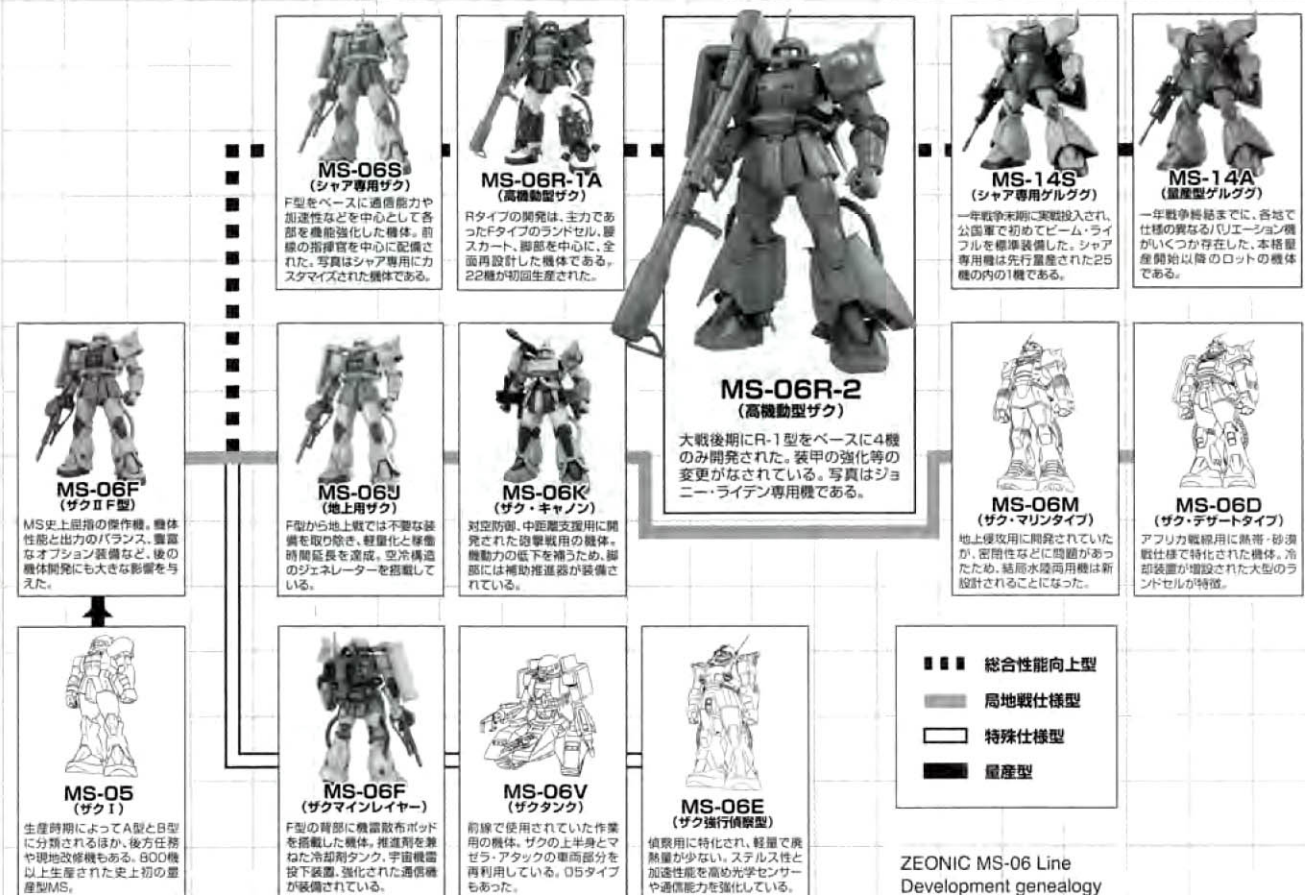
言われている。当時のジオニック社は、既に本格的な次期主力機としてビーム兵器の運用を前提とするMS-11(後のMS-14)の開発に遅延が生じていたため、主にビーム砲の技術を有する同業他社の技術導入を軍首脳部に打診していた。実際問題として、軍主導による関係各社の開発生産能力を糾合する案件が水面下で進展していたこともあって、ジオニック社はこの裁定に従ったと言われている。

06R-1と06R-2の主な違いは、ジェネレーターの換装、装甲材質の変更、脚部装甲の構造強化、プロブレラント積載量の増量などである。内部の構造材や他の部分の装甲材質も大幅に変更されており、それはコクピット周りにも及んでいる。脚部もR-1型をベースとする新設計のユニットであり、外観上は脚部と肩部スパイクアーマーの変更程度と見えて、その実全く別の機体であると言っても過言ではない。4機だけ試作された06R-2は、すべて名だたるエースパイロットの元へ配備されている。内訳は、ジョニー・ライデン、ロバート・ギリアム、ギャビー・ハザード、エリオット・レムらである。もともと、エリオット・レムは開発チームに近い技官兼テストパイロットと言える開発スタッフであり、彼の手に残された06R-2は、後に脚部を中心として徹底的に改造されている。この機体は便宜上、MS-06R-3 ザクIIIと呼ばれ、MS-14 ギルググの試験機として使用された。実際には、この型式番号は正式なものではなく、開発チームがなげかりにつけたものであったようだ。関係者の証言によると、MS-14用に開発されたパーツが多用されていたため、ザクIIとギルググの中間的な外観をしていたと言われている。事実、06R-2からして「ザクの皮を被ったギルググ」とも言われる事もあった。

MS-06R-2を代表する真紅と黒に彩られた機体を駆るジョニー・ライデンは、キシリア麾下の突撃機動軍に所属し、「真紅の稲妻」と渾名され、一撃離脱の戦法を得意としていた。サイド3への第一次移民の三世として生まれ、国防軍に志願。兵学校を卒業後MSパイロットとして配属され、開戦時は曹長としてMS-06Cに搭乗。続くルウム戦役において戦艦3隻を撃沈し、その功績によって大尉に昇進。乗機も06Fに乗り換えている。この時期以来、機体を真紅と黒に塗装しており、これは少佐に昇進して後のMS-06R-2、さらに戦争末期のMS-14Bにも継承されている。ア・バオア・クー攻防戦にも参加しているが、戦闘中に行方不明となり終身中佐に昇進。以後の消息は不明であるとされている。

MS開発系譜 -ザク 総合性能の限界-

ザクの適応能力は既存の兵器体系をことごとく覆し、多様なアプローチによって、あらゆる環境に適応してみせた。その反面、ザクによる輝かしい成功体験そのものが、ジオニックをして次世代機への移行を遅らせる遠因となっていたことも否定できない。それは、R型の開発経緯そのものによって検証されているとも言える。ザクは誕生から数年を経て、その使命を終えつつあったことは紛れもない事実であった。MS-06R-2に冠せられた「ザクの皮を被ったギルググ」との評価は、決して故無きものではないのである。



スペック

MS-06R系の機体の最大の特徴は、専用バックパックへの換装と脚部の改造だが、それらはただ単にユニットを換装しただけのものではなかった。既存のF系バリエーションとは異なり、R型の脚部ユニットには、大幅な改造が施されているのである。まず、歩行脚としては最低限の機能のみ残り、大型のバーニアノズルをそれぞれ三基づつ配しているほか、プロブレラントタンクを内蔵し、脚部そのものを巨大なベクターノズルとして機能させるのである。さらに、バーニアスラスタの大出力化に伴うプロブレラント消費量の増加に対応すべく、大腿部にも大容量のタンクが内蔵されたため、外装形状にも手が加えられた。そのため可動範囲が少しばかり狭小化したものの、空間戦闘では特に問題となる事は無かった。06R-2は、そのコンセプトを更に押し進め、下半身全体を巨大なバーニアユニットと見まごうばかりの構造としている。それによって、ドム系のように「巨大な推進ユニットを覆うために必要十分な外径」を割り出すのではなく、「必要十分な外径内に必要十分な推進ユニットを内装する」構造としている。それによってこの機体は、リック・ドム以上の機動性と運動性を発揮するのである。このシルエットがギルググを彷彿とさせることは言うまでもない。



△ 注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

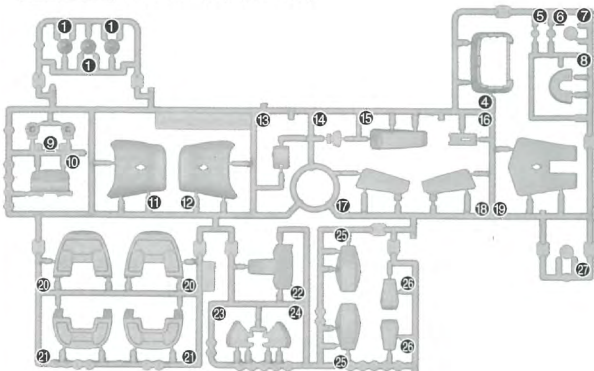
〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

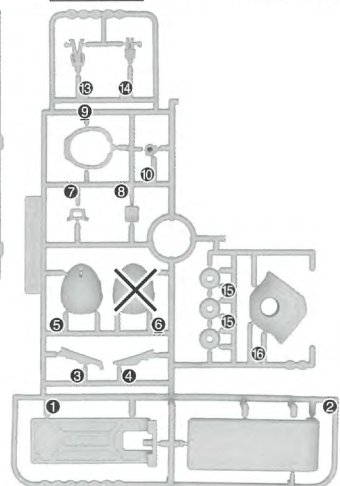
パーツリスト

(X印は使用しないパーツです。)

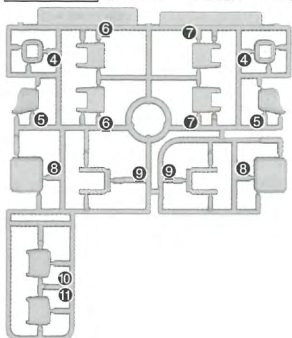
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



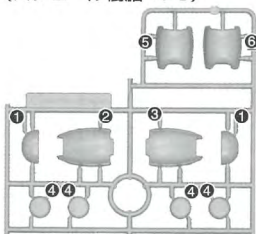
Bパーツ (スチロール樹脂: PS)



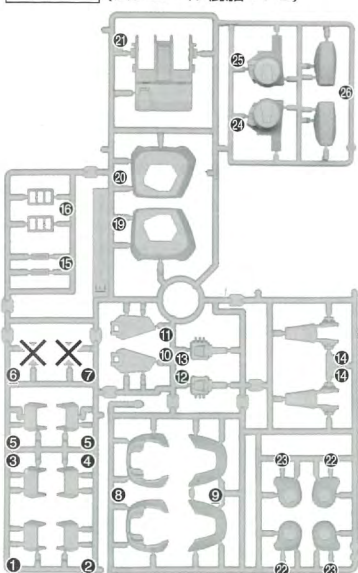
Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



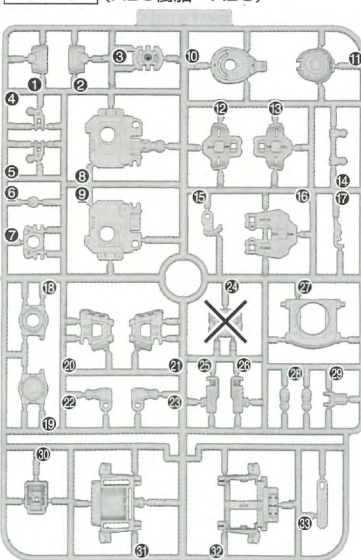
Dパーツ
(スチロール樹脂: PS)



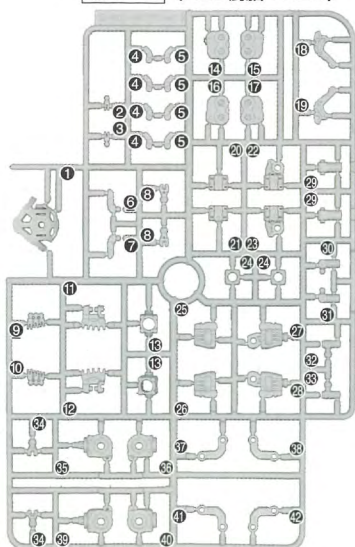
Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



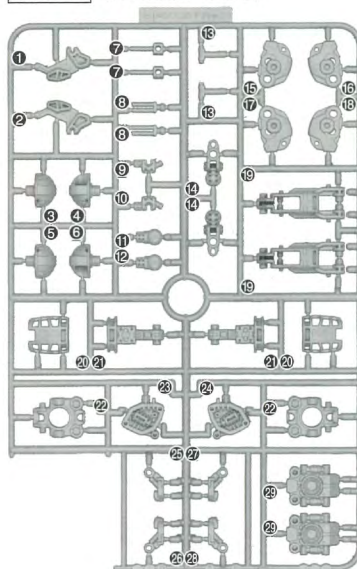
Fパーツ (ABS樹脂: ABS)



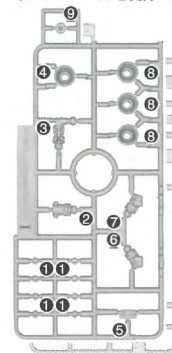
Gパーツ (ABS樹脂: ABS)



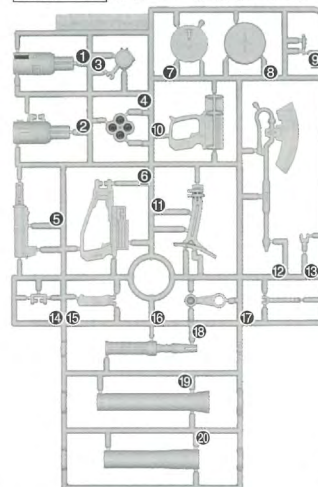
Hパーツ (ABS樹脂: ABS)



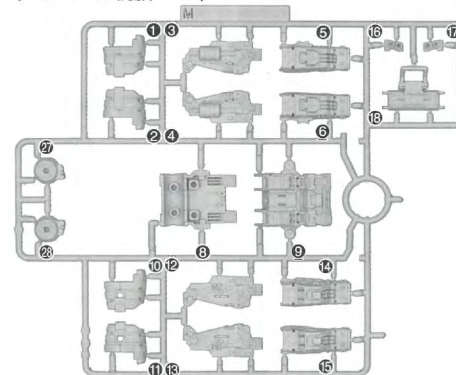
Iパーツ (×2)
(スチロール樹脂: PS)



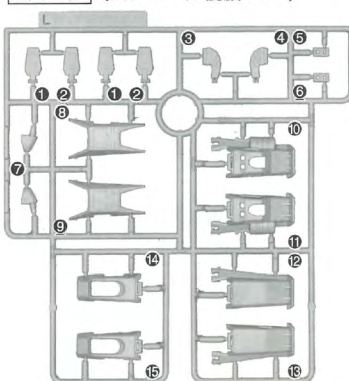
Jパーツ (スチロール樹脂: PS)



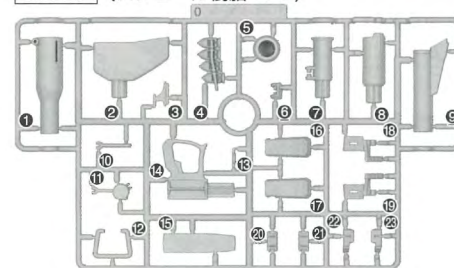
Mパーツ
(スチロール樹脂: PS)



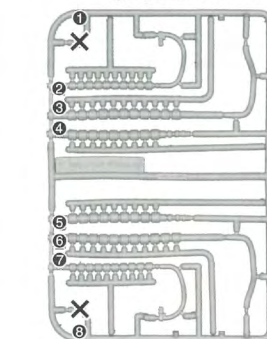
Lパーツ (スチロール樹脂: PS)



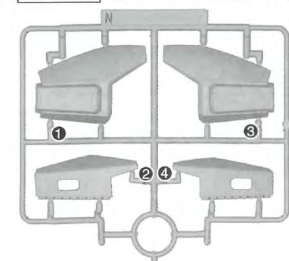
Oパーツ (スチロール樹脂: PS)



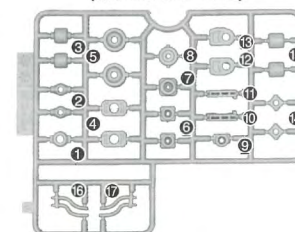
Kパーツ (スチロール樹脂: PS)
(ポリエチレン: PE)



Nパーツ (スチロール樹脂: PS)



〈PC-200A〉
(ポリエチレン: PE)



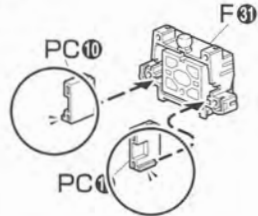
- カラーシール.....1枚
- マーキングシール.....1枚
- ガンダムデカル.....1枚
- パイプスプリング.....2本

組み立て前の基本説明

部品の向きに注意してください

※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。

1 (胸部の組立) (1) BODY UNIT



ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

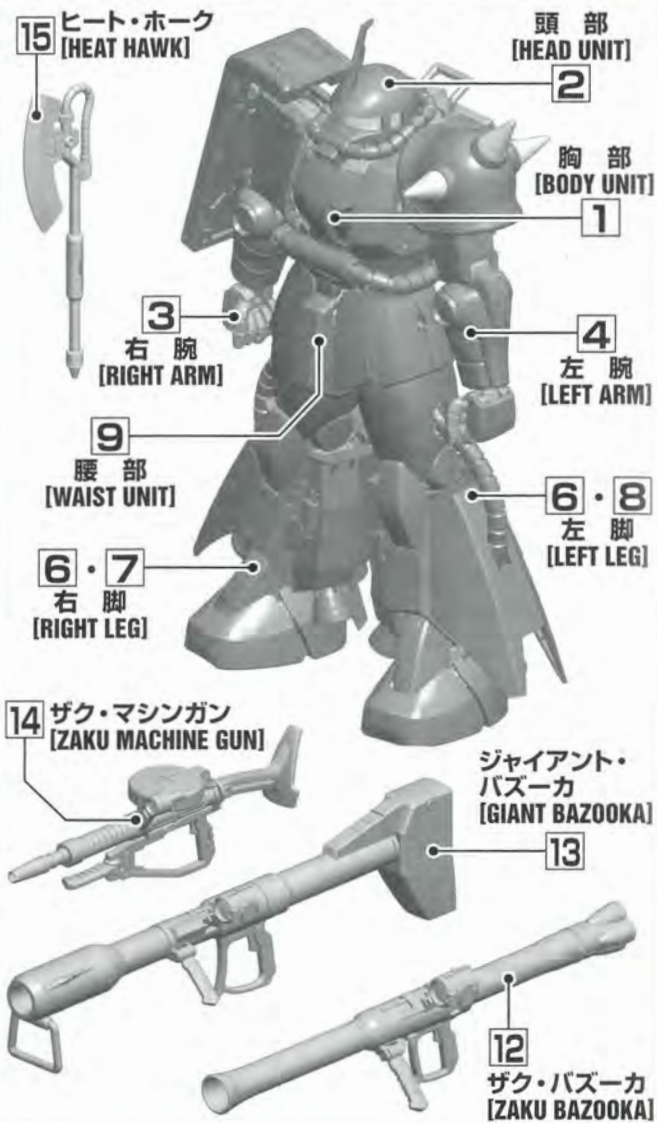


②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、すれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

説明書をよく読んで完成させましょう

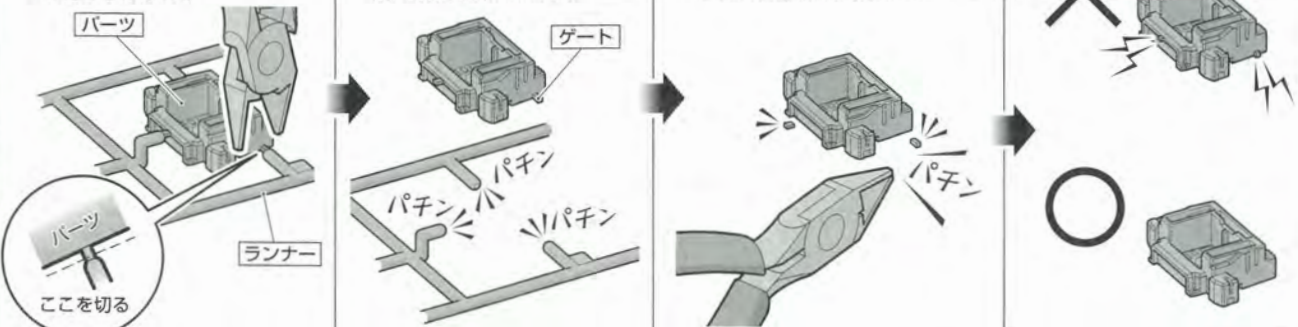


パーツの切り取りかた

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

②パーツを切り離して持ちやすくしたところでゲート跡の処理に入ります。

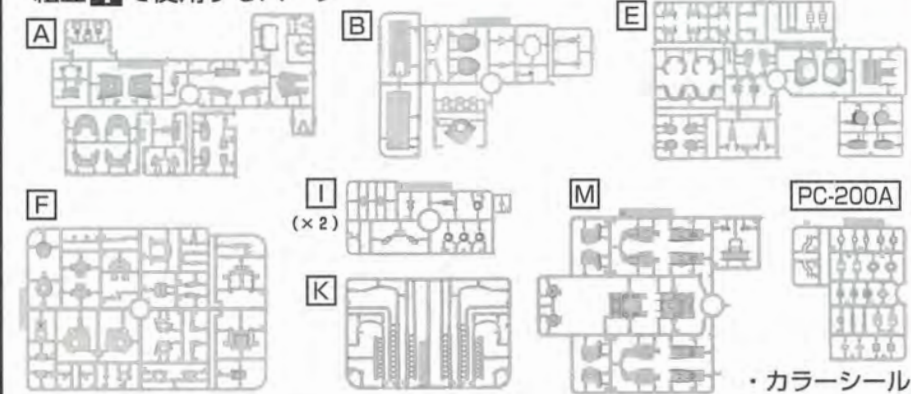
③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



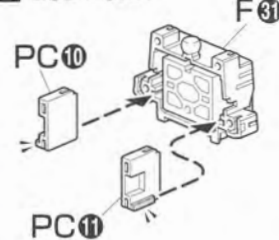
1 BODY UNIT



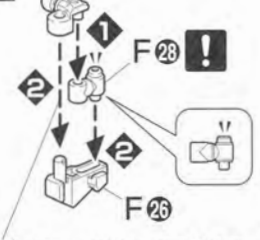
・組立1で使用するパーツ



1 (胸部の組立) (1) BODY UNIT

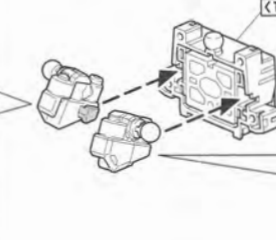


1 (2)

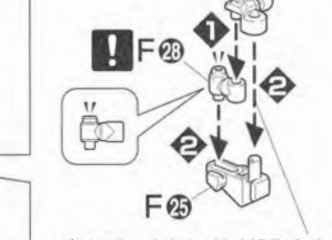


※奥までしっかりと、はめ込みます。

1 (1)

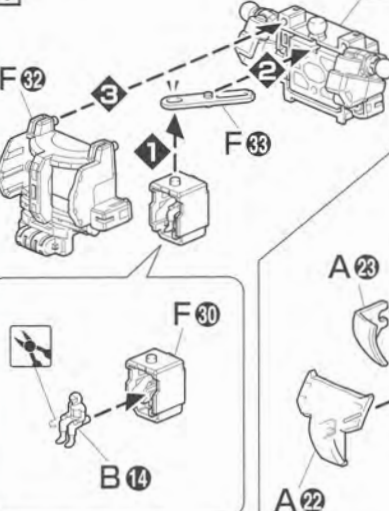


1 (2)

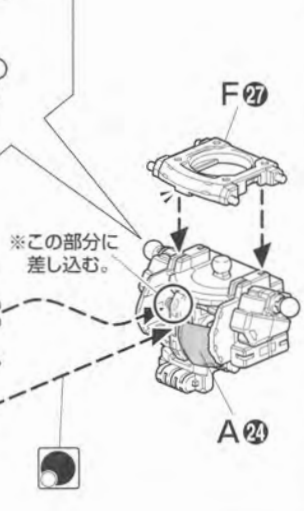


※奥までしっかりと、はめ込みます。

1 (3)

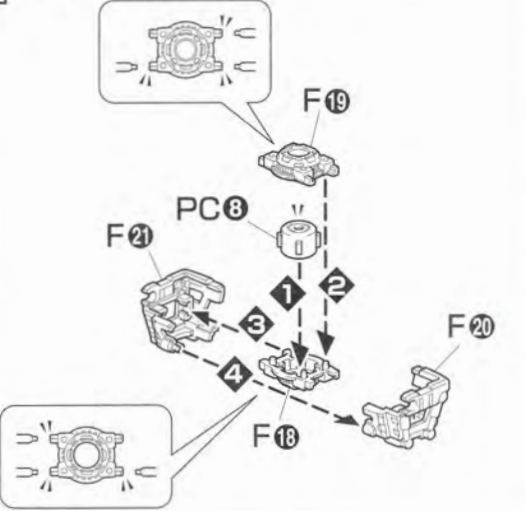


1 (2)



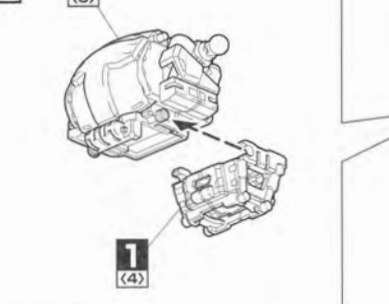
※この部分に差し込む。

1 (4)

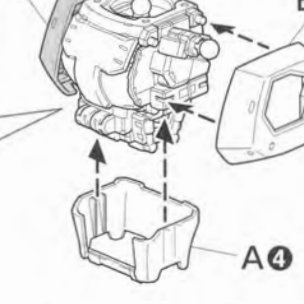


※F10・F10は、ピンを切り取らないように注意してください。

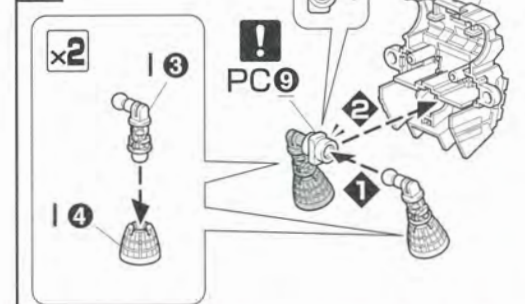
1 (5)



1 (3)



1 (6)



1 (7)

M6 M18 ! M20 M27 E24 E25 E21

広い
上
下
狭い

1 (6)

1 (8)

E16 ! E11 E12 E15

※この切り欠きを合わせます。
〈裏側から見た図〉

1 (7) 1 (5)

1 (9)

※K3・K6は以下の手順で組み立ててください。

K3(K6)

3

※パイプを図の位置まで一個ずつ向きを確認しながら移動します。

※K6も同様に組み立ててください。

(最後に切り取る)

2

※一目のパイプは使用しません。パーツから抜き取ってください。

※使用しません。

1 (10)

A9 A10 K3(K6)

1 (8) 1 (9) (K6)

2 HEAD UNIT

・組立2で使用するパーツ

A B F K PC-200A

・マーキングシール

2 (頭部の組立)

1 HEAD UNIT

F2 F3 F6 F10 A6 F1 PC1

※F6は、ピンを切り取らないように注意してください。

2 (3)

※K2・K7は以下の手順で組み立ててください。

K2(K7)

2 (2)

F11 A8 B9 B10 !

2

※パイプを図の位置まで向きを確認しながら一個ずつ移動します。

※K7も同様に組み立ててください。

(最後に切り取る)

2 (4)

※左右に注意して組み立ててください。

K2 B8 B3 B5 B7 B4 !

前

2 (5)

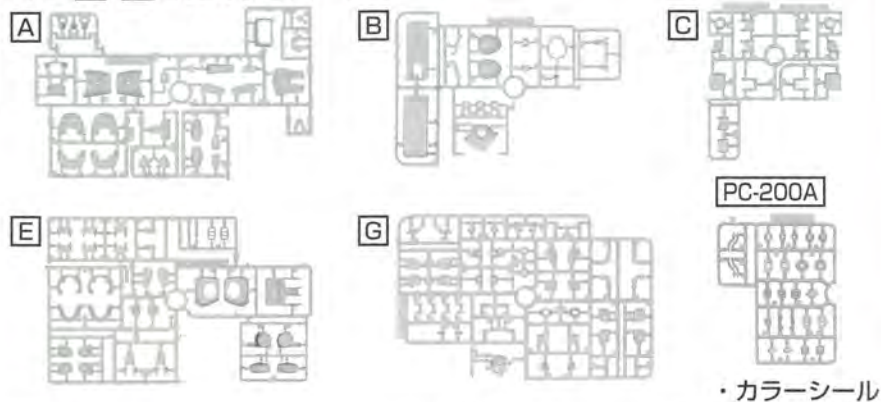
B3 B5 B7 B4

前

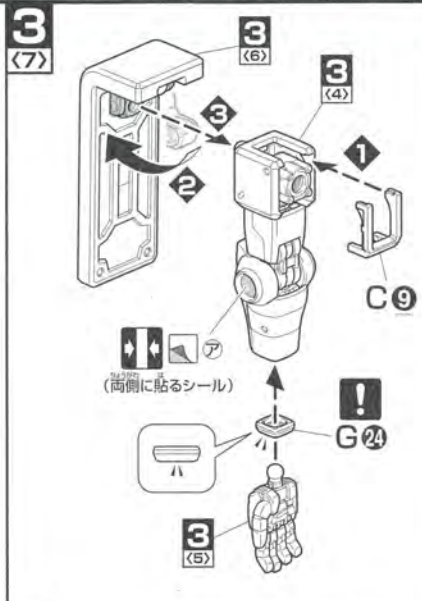
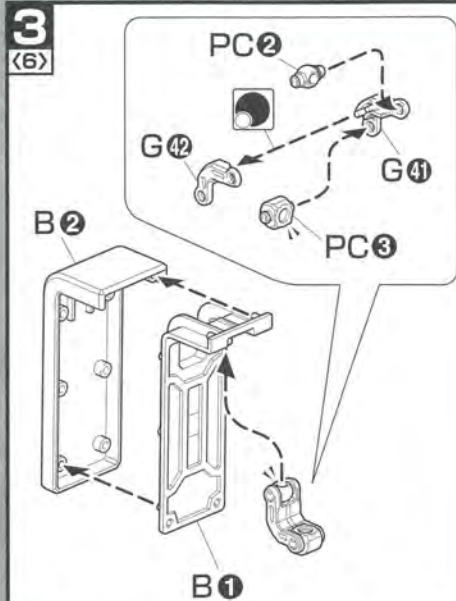
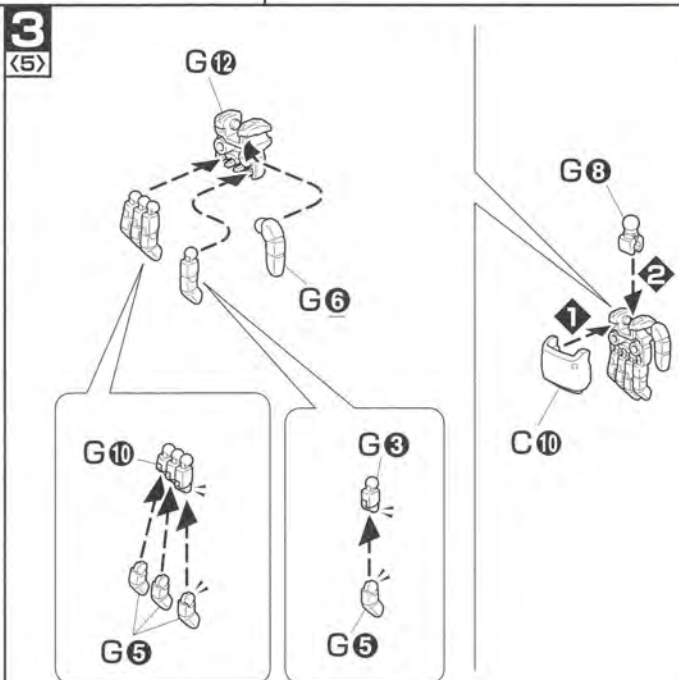
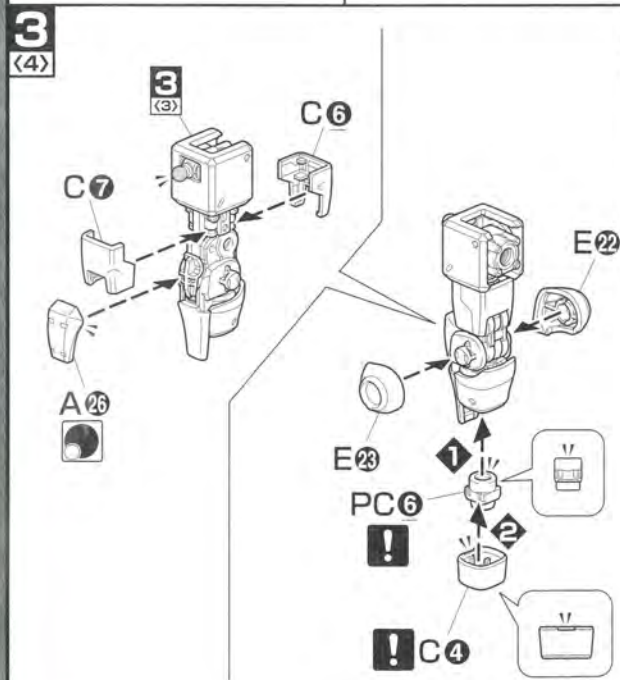
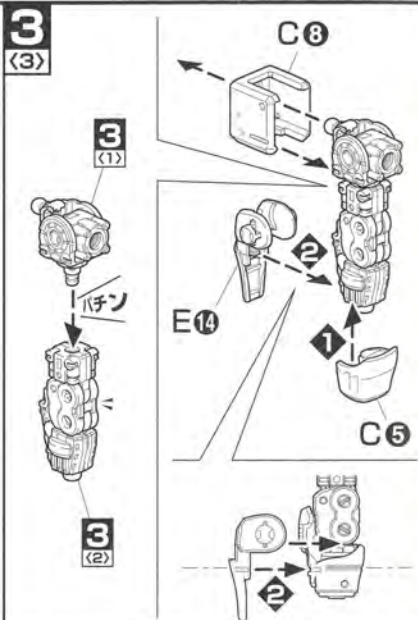
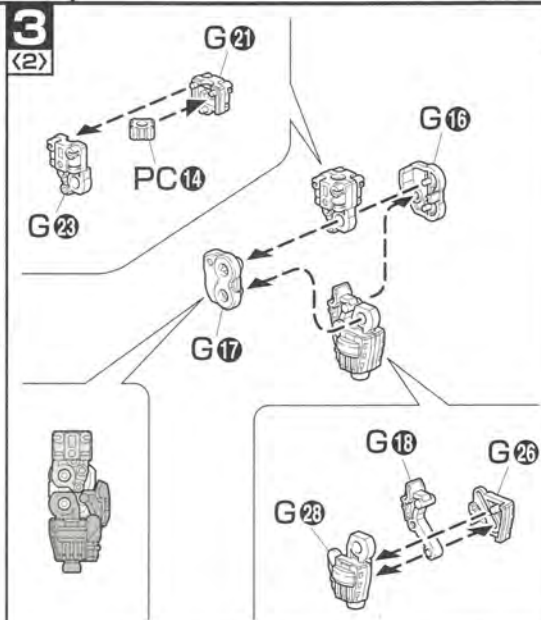
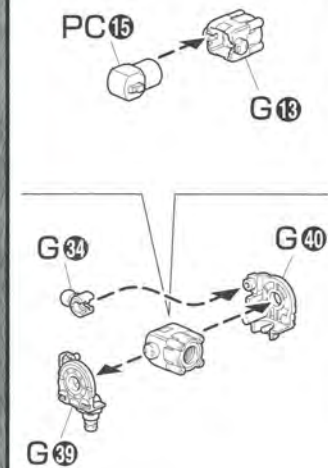
34 ARM UNIT



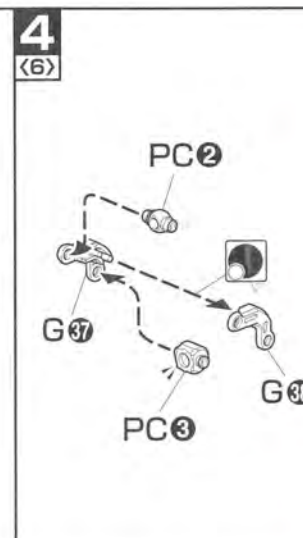
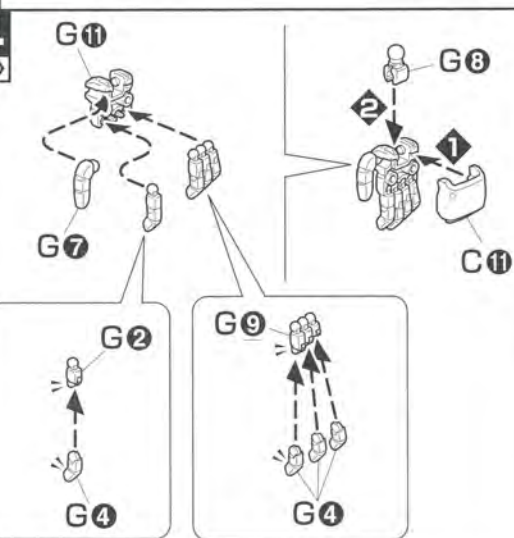
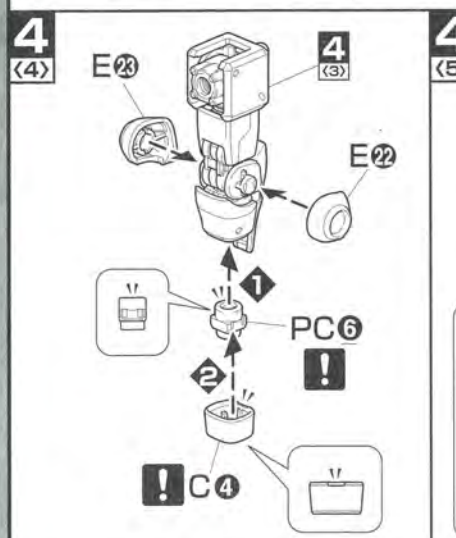
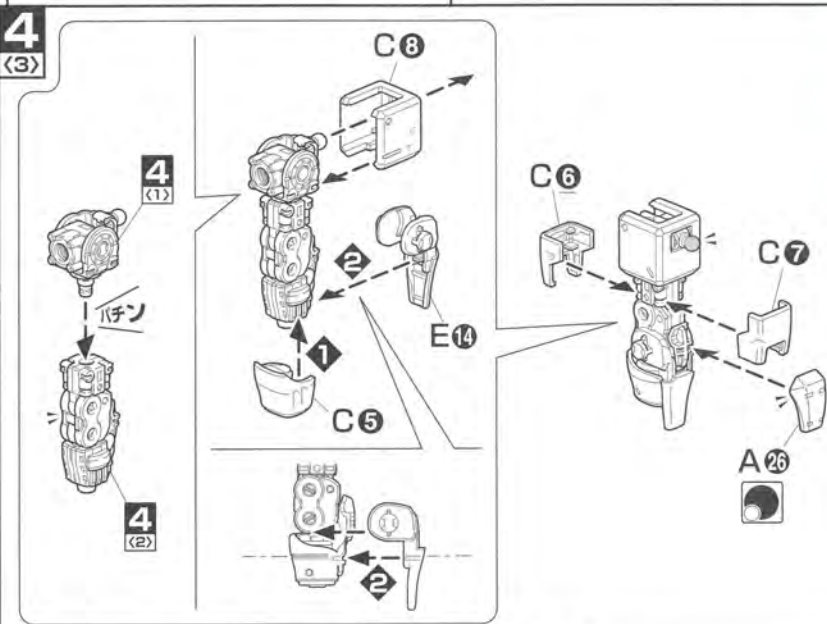
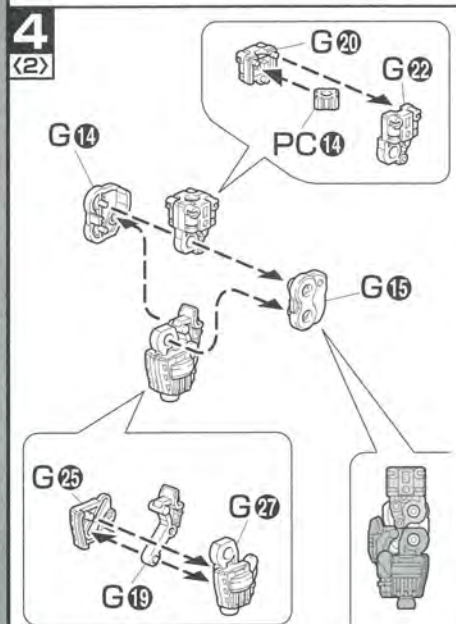
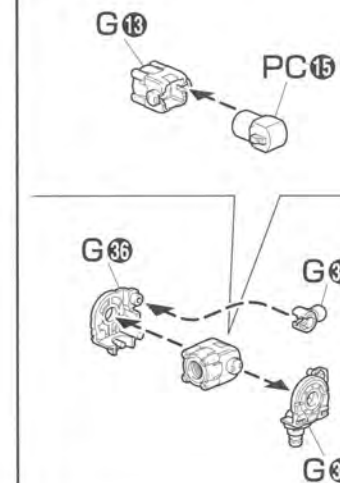
・組立3・4で使用するパーツ



3 (右腕の組立) (1) RIGHT ARM



4 (左腕の組立) (1) LEFT ARM



MS Tracks in U.C.0079 (一年戦争の軌跡)



テキサスの赤い稲妻

U.C.0079年12月某日、ソロモン近海で「赤い新型機」が目撃された。それまでの期間に宇宙で目撃された何例かの「赤いザク」のうち、現在ではその多くが、この「真紅の稲妻」ことJ(ジョニー)・ライデンが搭乗する06R-2であったとされている。ジャブロー戦直後のWB(ホワイトベース)部隊は「シャアはWBを追って宇宙に上がった」という証言をしている。その後、12月24日のソロモン陥落。直後にその近傍で真紅の06R-2が連邦軍のMS部隊と交戦があったという記録から、その機体は「シャアの新型(ゲルググ)ではないか」と物議を醸したのである。しかし、後にその機体はJ・ライデンが駆る06R-2であった事がほぼ確定されている。一方ではゲルググの先行量産型の実戦配備は10月下旬とする資料もあり、J・ライデンが機体を何度か乗り換えていた可能性も否定できない。J・ライデン自身が「06R-2こそが自分の愛機である」と語っていたとする証言や、ア・バオア・クーの陥落間際に撃墜されたゲルググBから脱出、06R-2に更なる改造を加えた機体で再度戦場に出撃した、などという風聞もあるほどである。いわゆる「ザクII高機動型 J・ライデン少佐専用機」はMS-06系MSの最高峰機であるが、パイロットの境遇から、まさに不遇の傑作機06R-2の代名詞である、とまで言われていた。それゆえか、戦後の混乱期における風来坊的な武勇伝や、U.C.090年代に至ってもなお、正体不明のMAとの戦闘記録などが、まことしやかに囁かれてもいる。ちなみに公式資料では、ア・バオア・クー戦以降の彼の消息はあくまで「不明」とされている。



MS-06R-2 ZAKU II MECHANISM

MS-06R-1Aの改修機である本機はジェネレーター出力の向上、装甲の変更等が施されている。4機のみが生産され、写真はそのうちの1機ジョニー・ライデン少佐専用機である。

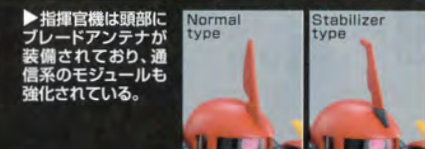


◀▲ ショルダーアーマーは激突時の衝撃を軽減するためにインナーフレームを内蔵。また、サポートアームが可動し、交換時やシールドとの換装時には容易に着脱が可能である。



▲ 空間戦闘能力を向上させるため、バーニアスラスターの性能向上、大口徑バーニアスとの換装などが行われている。

MODEL NUMBER : MS-06R-2
Height : 18m
Weight : 58.2t
Armor materials : super hard steel alloy



▶ 指揮官機は頭部にブレードアンテナが装備されており、通信系のモジュールも強化されている。



▶ F型から発展したR型のスラスターユニットは、ノズルの大型化やプロベラント・タンクの容量拡大がなされている。



▲ 大腿部は大容量プロベラント・タンクが内装され大型化が図られている。



▶ 脚部スラスターの被弾を防ぐため、防弾カバーが装甲として増設されている。

PAINTING (塗装)

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

MS-06R-2 ジョニー・ライデン専用ザク Ver.2.0 指定色

	頭、胴、脚などの塗装色 シャインレッド(60%) + ホワイト(20%) +イエロー(10%) + ニュートラルグレー(10%)		ヒート・ホークの塗装色 パープル(55%) + ホワイト(30%) + ニュートラルグレー(15%)
	動力パイプなどの塗装色 ミッドナイトブルー(90%) + ホワイト(10%)		ヒート・ホークのブレードの塗装色 イエロー(60%) + ホワイト(30%) + オレンジ(10%)
	胸両側部などの塗装色 マホガニー(40%) + ブラック(35%) + ホワイト(25%)		モノアイなどの塗装色 蛍光ピンク(100%)
	ショルダーアーマー スパイク部の塗装色 ホワイト(55%) + イエロー(30%) + オレンジ(15%)		武器などの塗装色 ミッドナイトブルー(75%) + ホワイト(15%) + ミディアムブルー(10%)

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

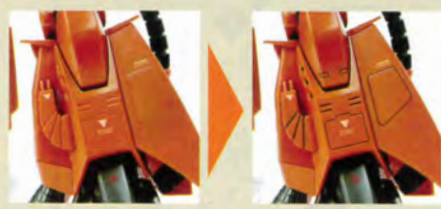
ジョニー・ライデン

	パイロット本体などの塗装色 シャインレッド(90%) + ホワイト(10%) + ブラック(少量)		ランドセルの塗装色 ミディアムブルー(100%)
	ヘルメットなどの塗装色 ホワイト(55%) + イエローグリーン(35%) + ブラック(10%)		パイロットA
	ヘルメットラインの塗装色 オレンジイエロー(100%)		パイロットB
	ヘルメット額の塗装色 ミッドナイトブルー(100%)		
	パイサーの塗装色 スカイブルー(100%)		

ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れてみよう!

ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感・リアル感が増します。スミ入れるだけで見違えるような仕上がりになります。



[before] [after]

Weapons

MS-06R-2 ZAKU II Armament



▼ヒート・ホークはサイドアーマーにマウントが可能。

▼ザク・マシンガンのマガジンはリアアーマーにマウントが可能。

4 (7) **!** B16

4 (6) G1

4 (8) **!** A1

4 (8) **!** B15

4 (8) **!** C9

4 (7) **!** G24

4 (7) **!** G24

4 (6) **!**

(高軸に貼るシール)

5 (上半身の完成) **UPPER BODY**

2で作った頭部

1で作った胸部

3で作った右腕

4で作った左腕

6 (3) **!** **×**2

※H7は、ピンを切り取らないように注意してください。

H7

H9

H10

H11

G30 (G31)

6 (2)

7 (右脚の組立) **RIGHT LEG**

! H10

H10

G29

H21

H1

H19

H7

7 (2) **!** M10

M10

M1

7 (1)



・組立6・7・8で使用するパーツ

A D E G H

I (x2) K L M PC-200A

N O

・パイプスプリング(×2)

7 (3) **!** PC4

PC4

H20

H24

M10

7 (2)

! D4

D4

M3

M10

1 2

1 8

(ピン)

7 (4) **!** H6

H6

PC10

H6

H12

6 (1) **×**2 (脚部の組立) **LEG UNIT**

H29

H29

H25

H26

G32

G33

H28

H27

H22

PC5

裏返します

6 (2) **×**2

E8

E8

H8

E9

A21

A20

6 (1)

7 (5) **!** **×**2

〈上から見た図〉

M15

M6

I7

I8

I6

7 (3)

7 (4)

7 (5)

7 (6)

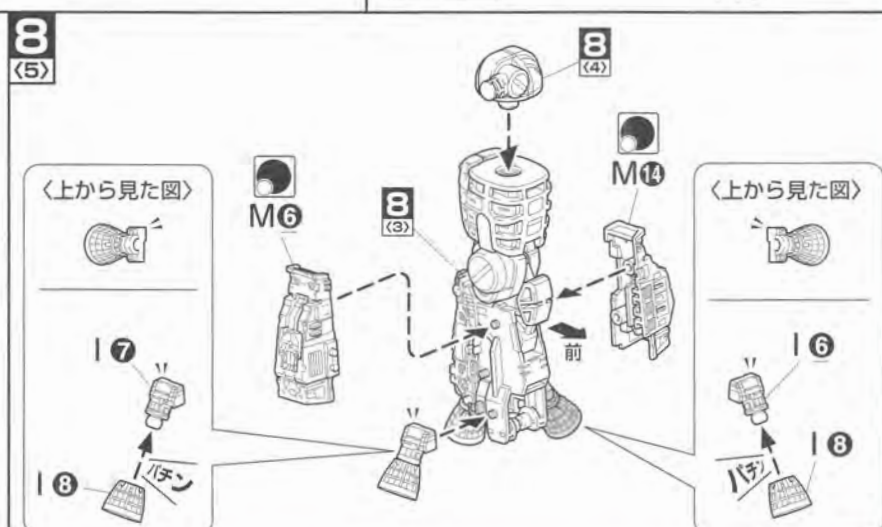
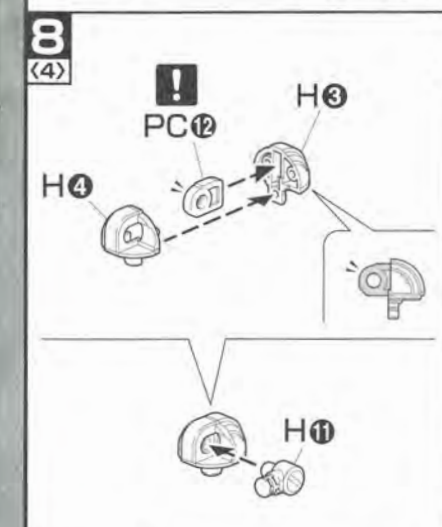
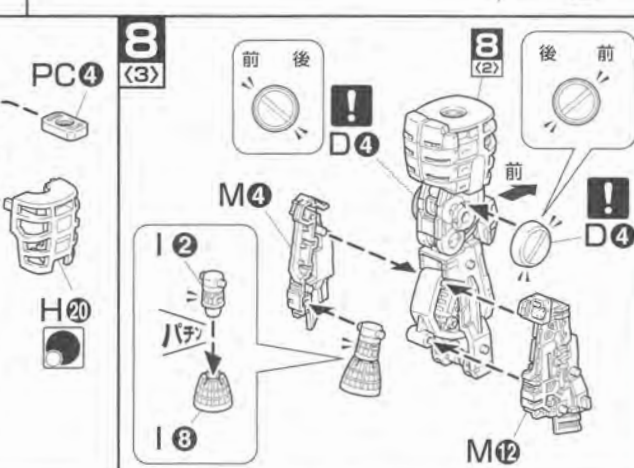
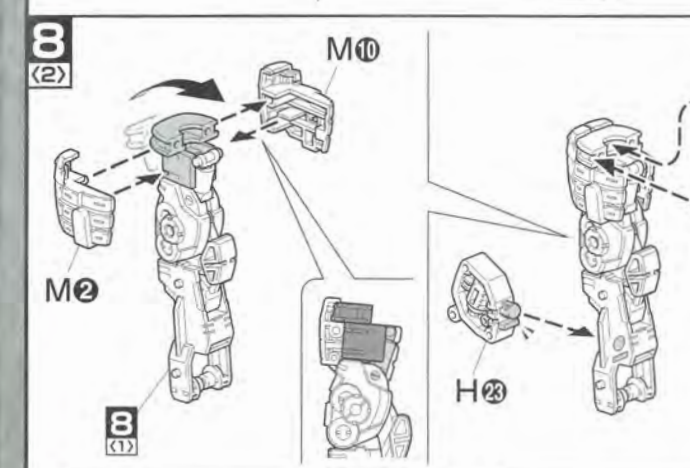
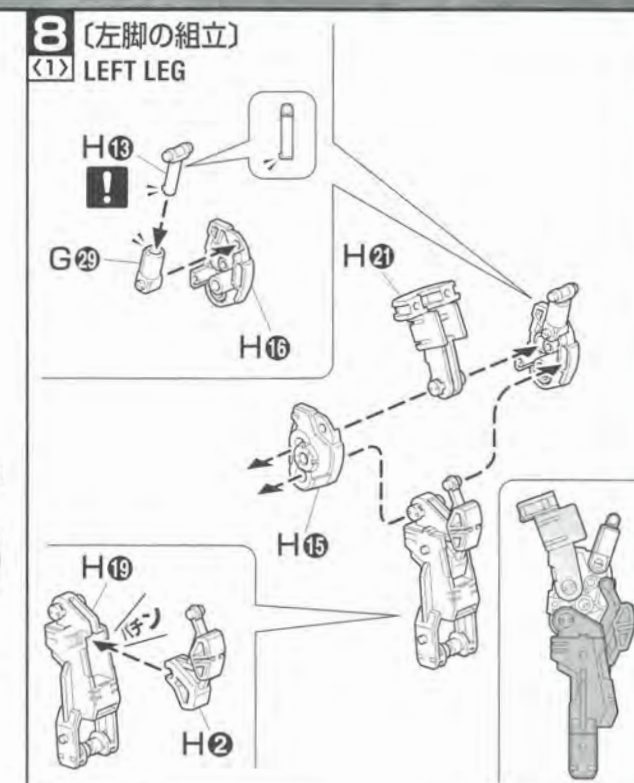
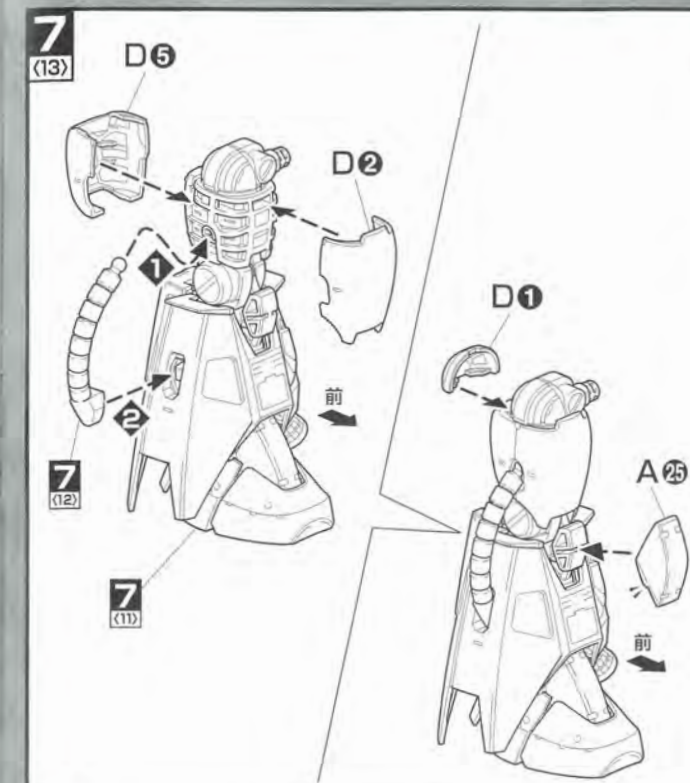
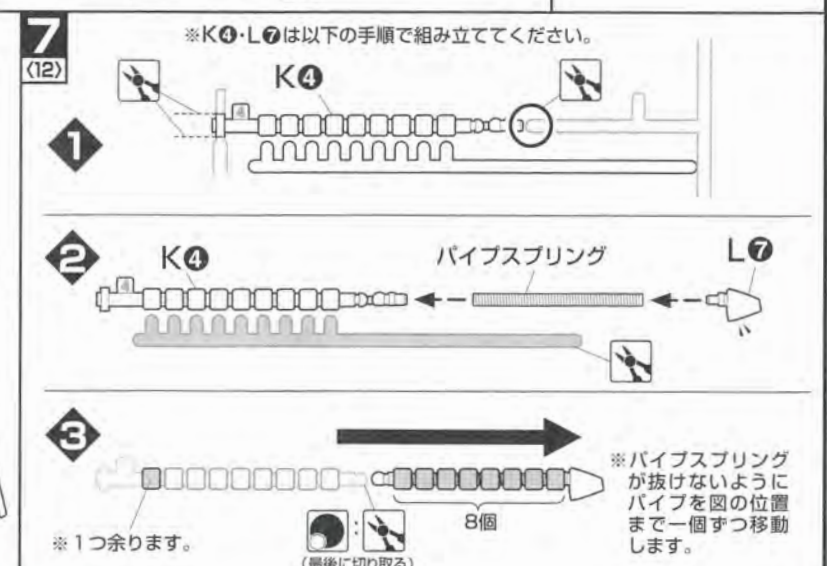
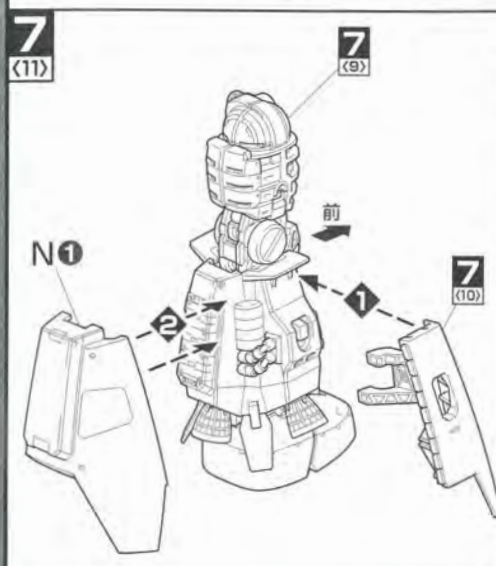
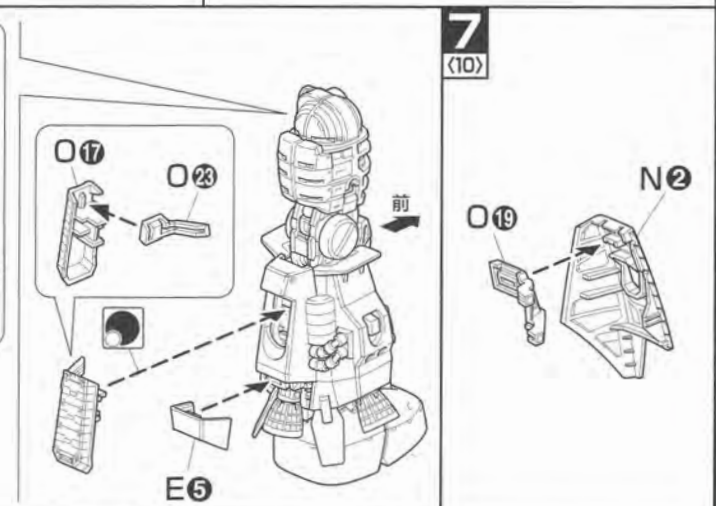
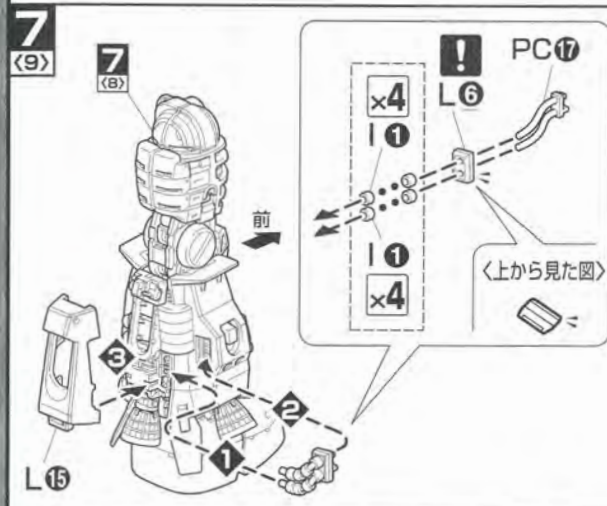
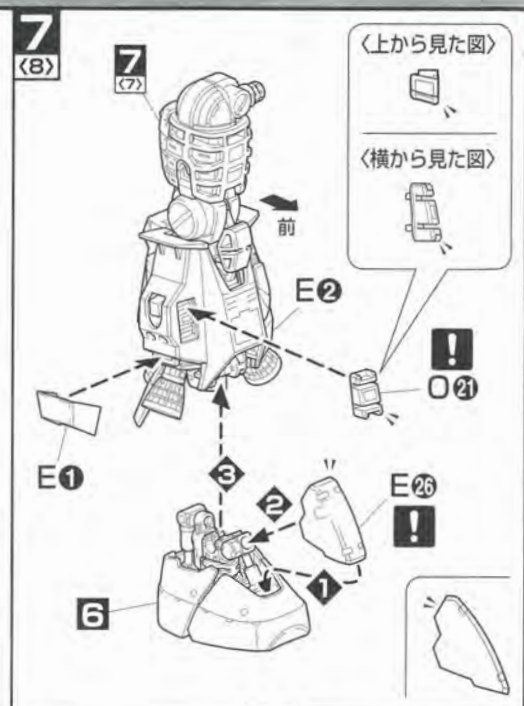
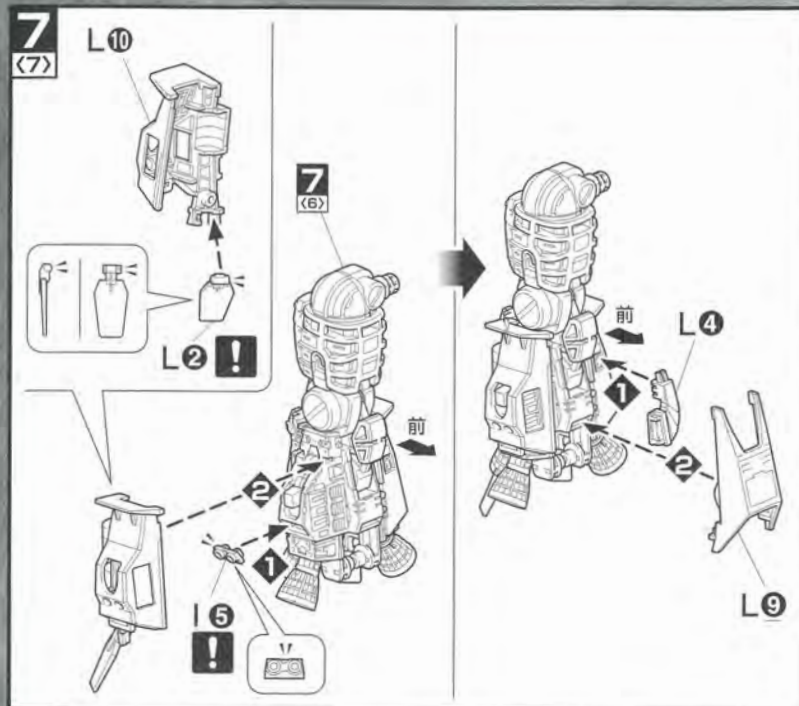
7 (6) **!** L1

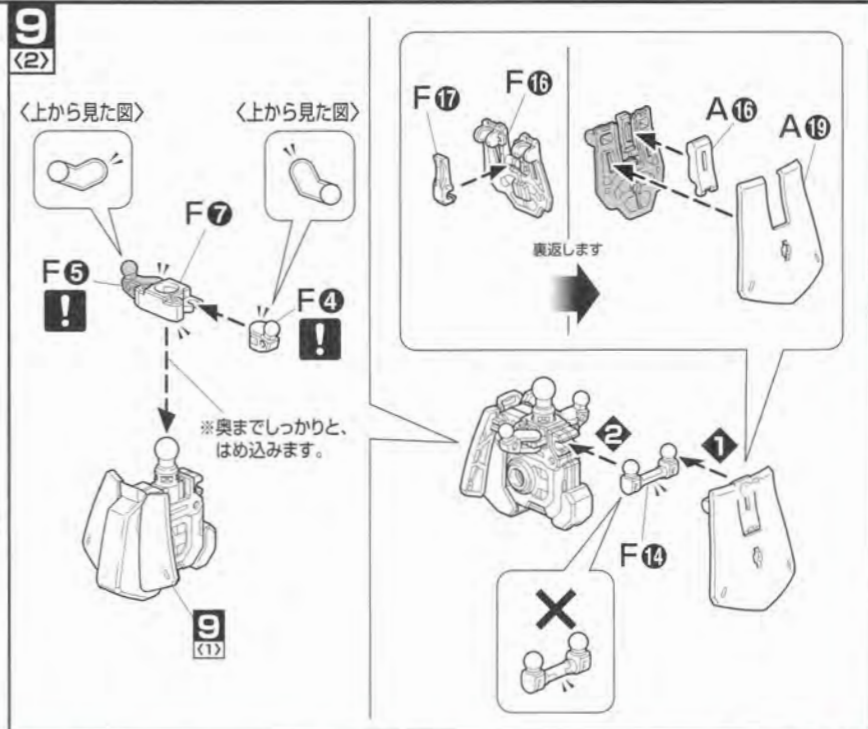
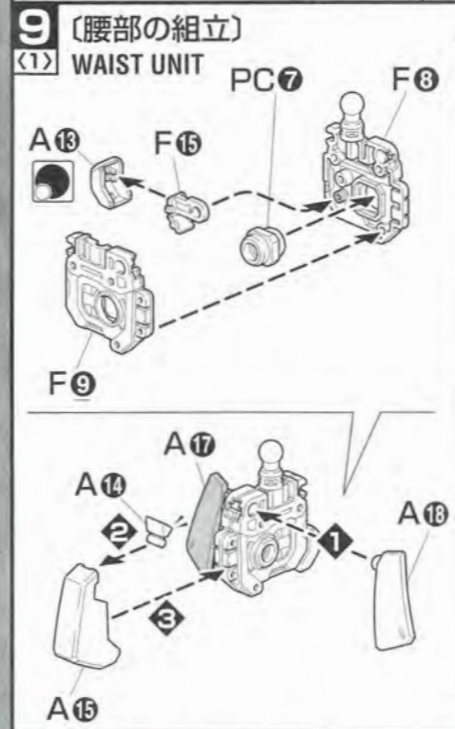
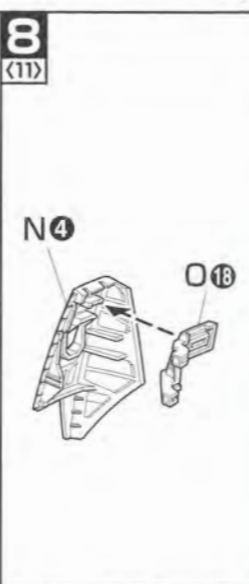
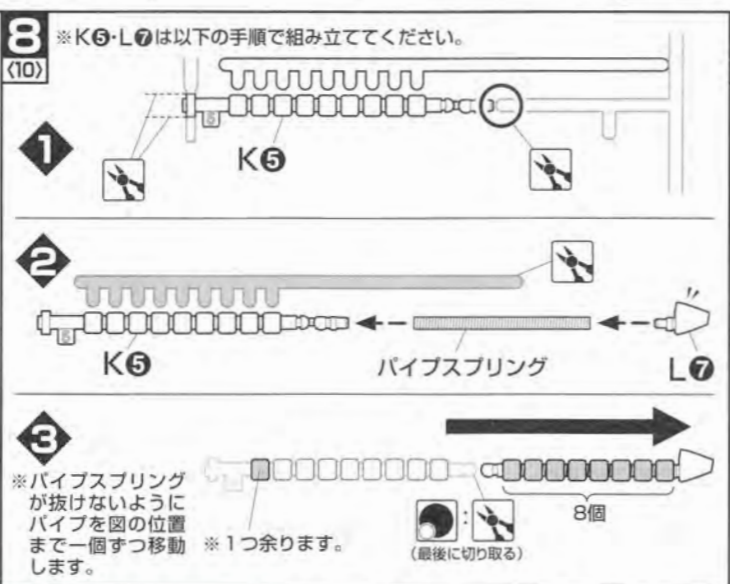
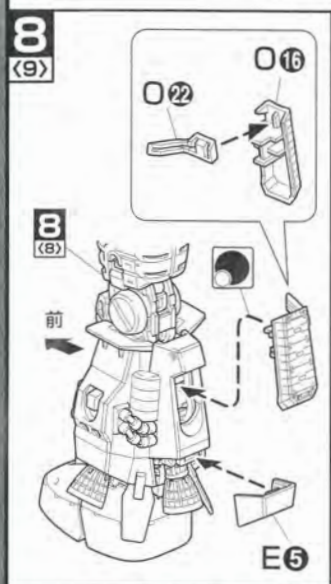
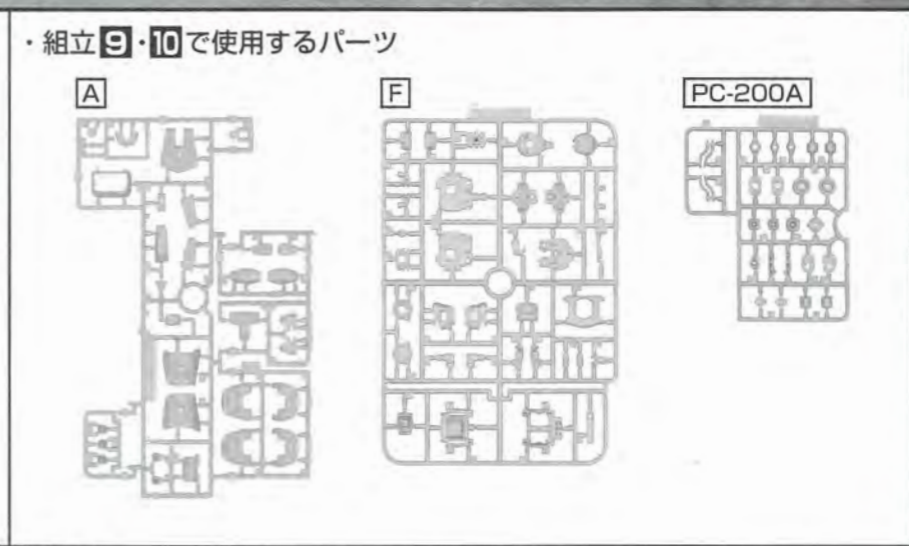
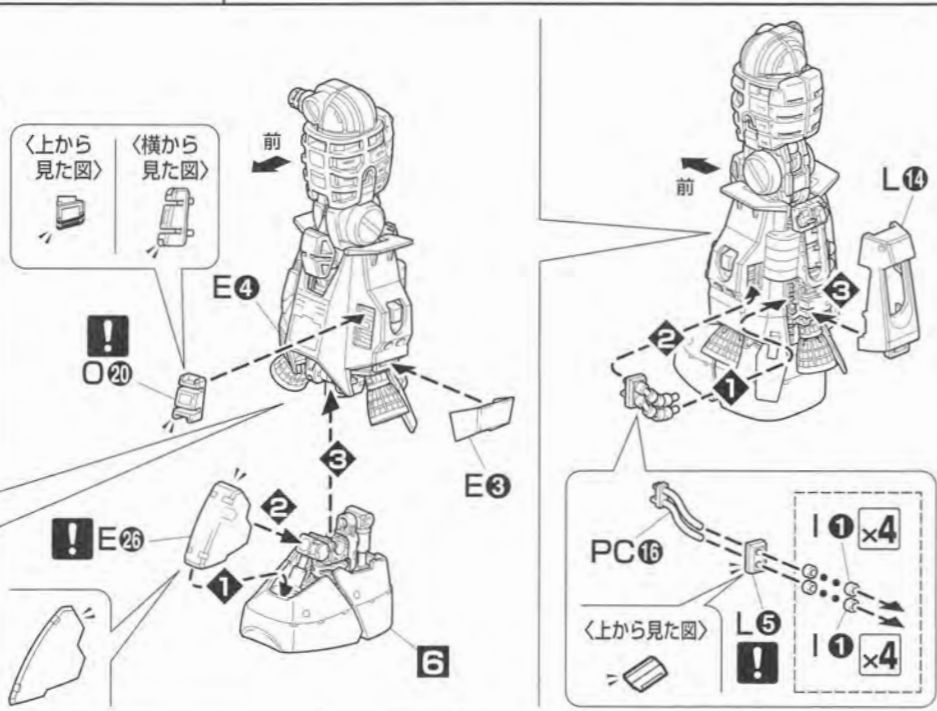
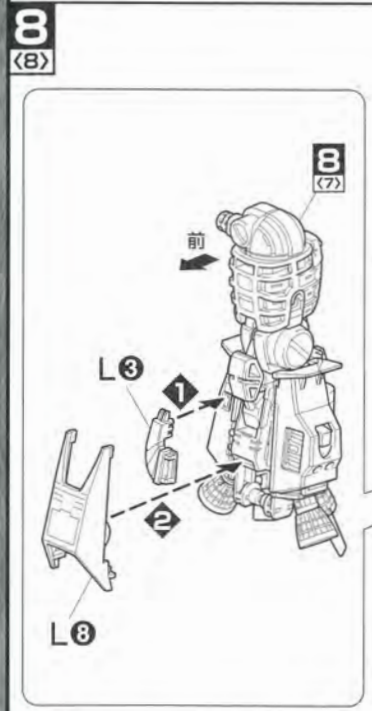
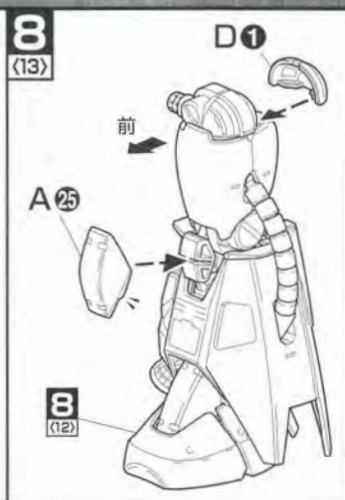
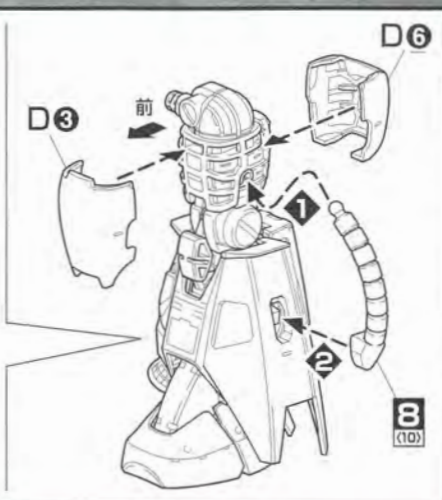
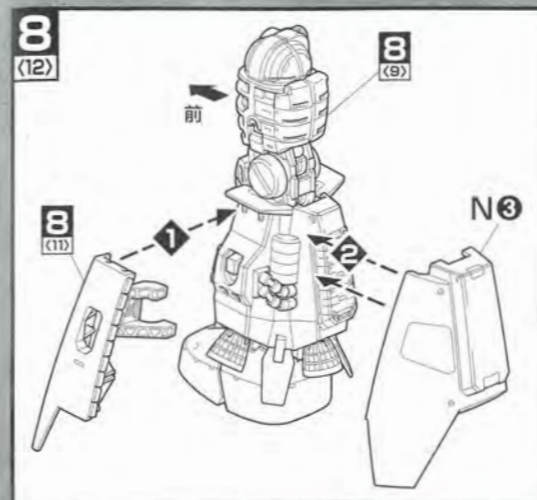
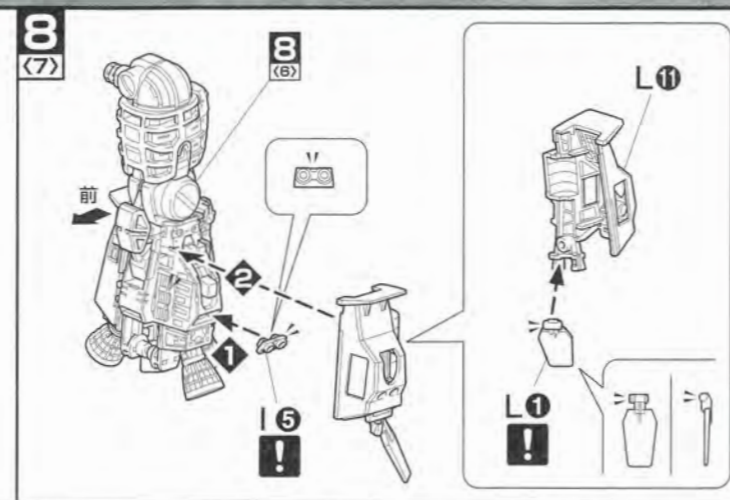
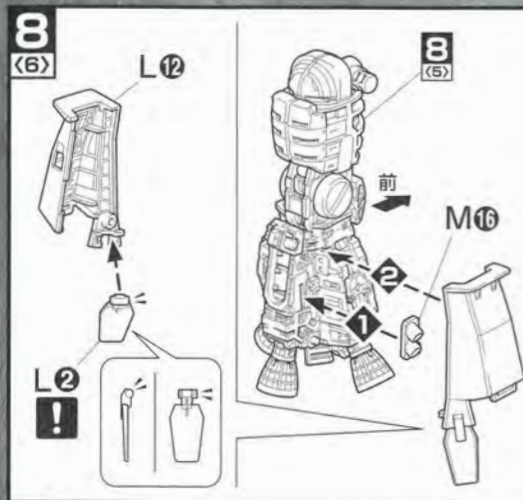
L1

L10

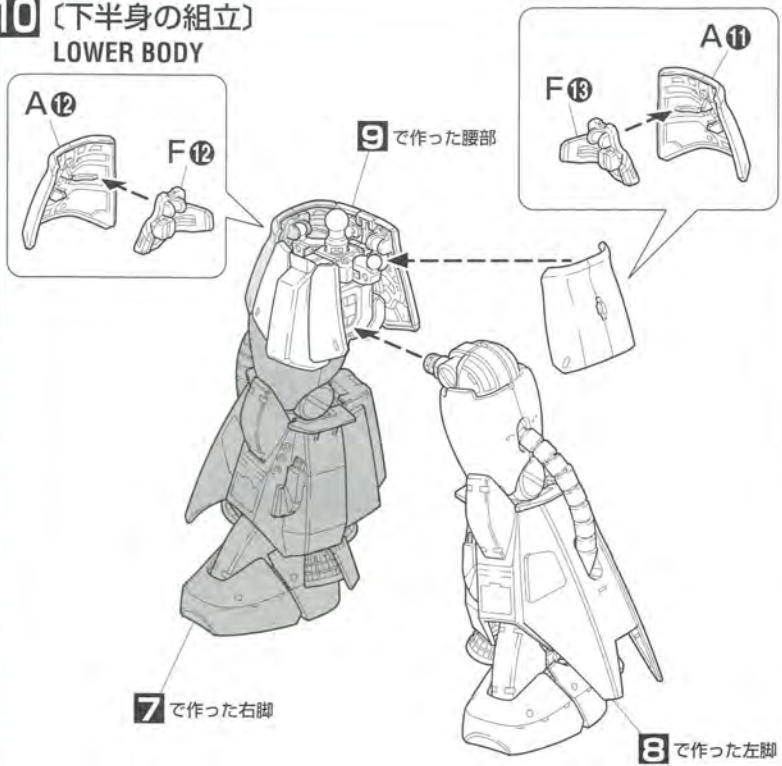
M17

7 (5)

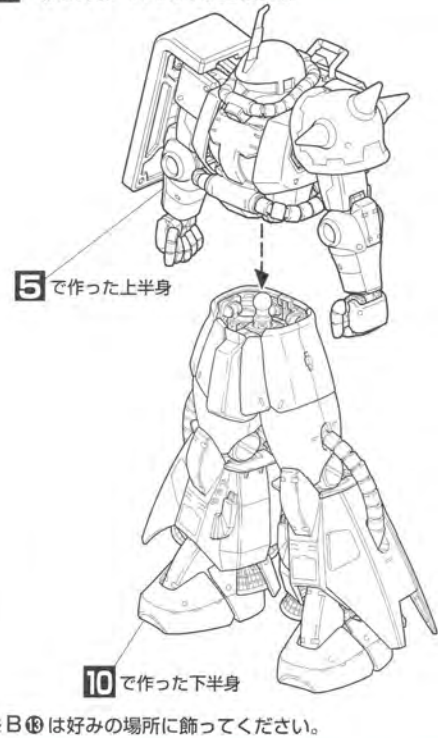




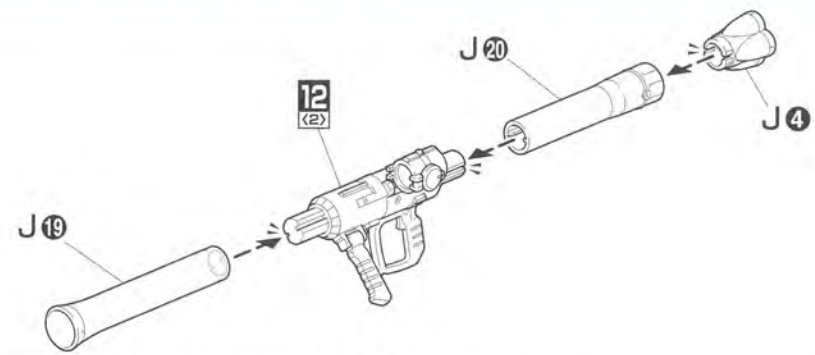
10 [下半身の組立]
LOWER BODY



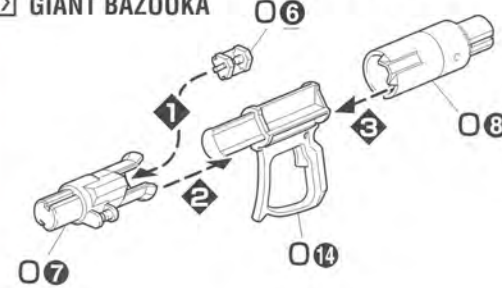
11 [完成] FINAL ASSEMBLE



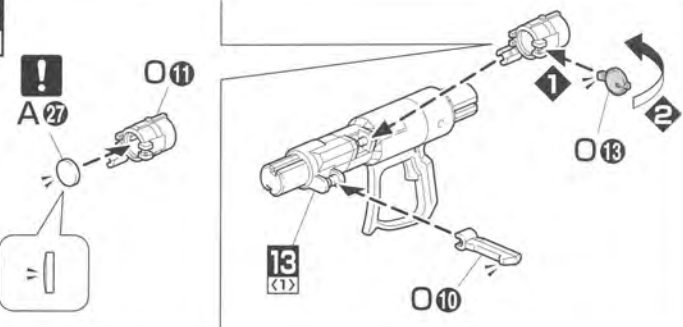
12
(3)



13 [ジャイアント・バズーカの組立]
(1) GIANT BAZOOKA



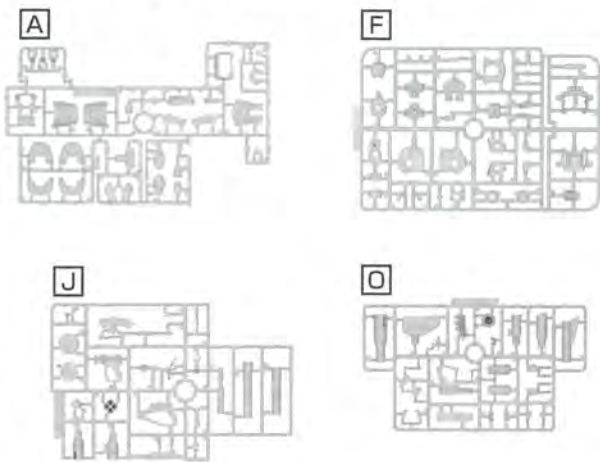
13
(2)



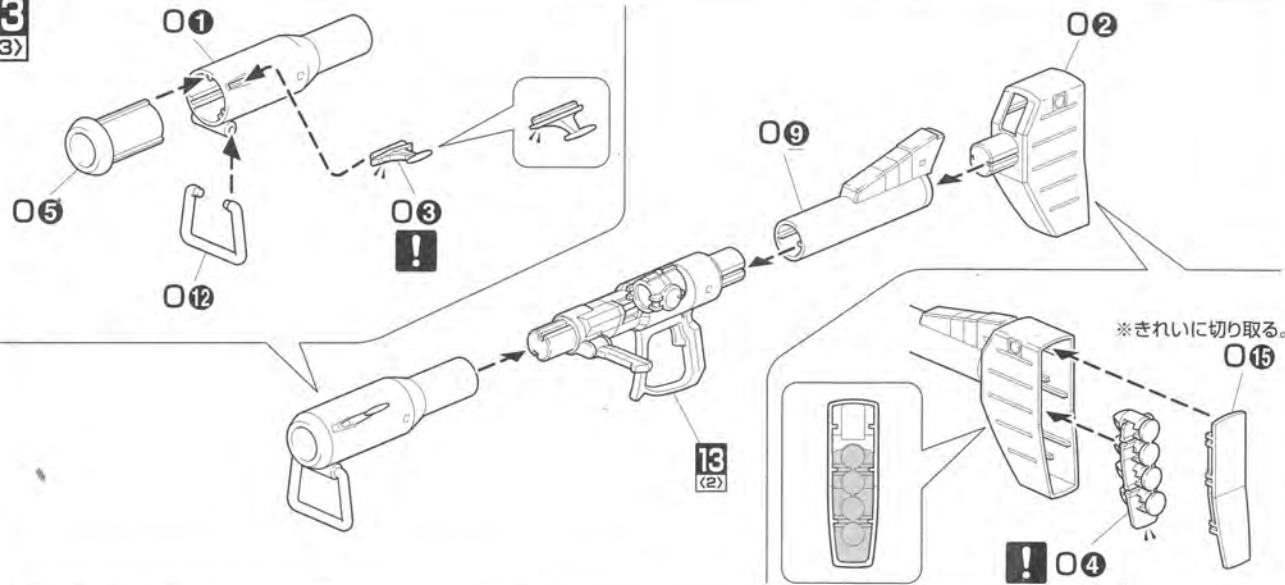
12 13 14 15 WEAPONS



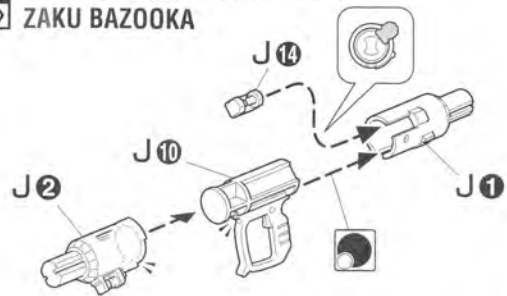
・組立 12・13・14・15 で使用するパーツ



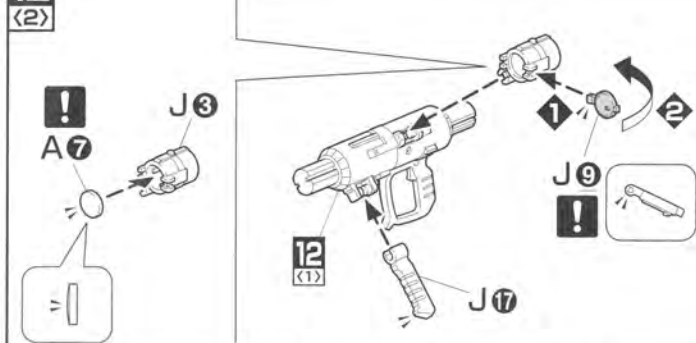
13
(3)



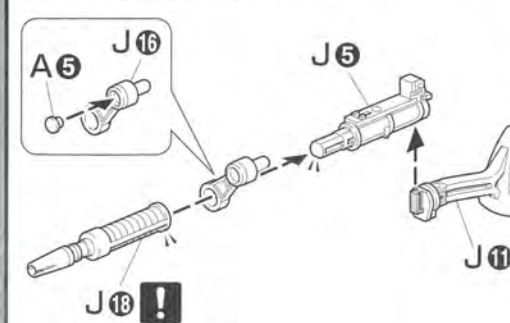
12 [ザク・バズーカの組立]
(1) ZAKU BAZOOKA



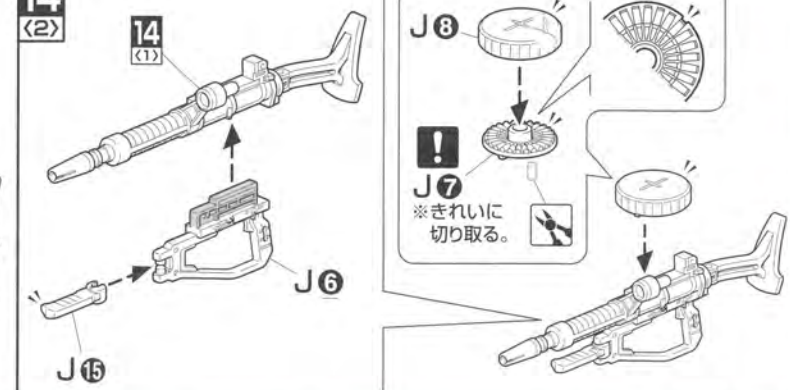
12
(2)



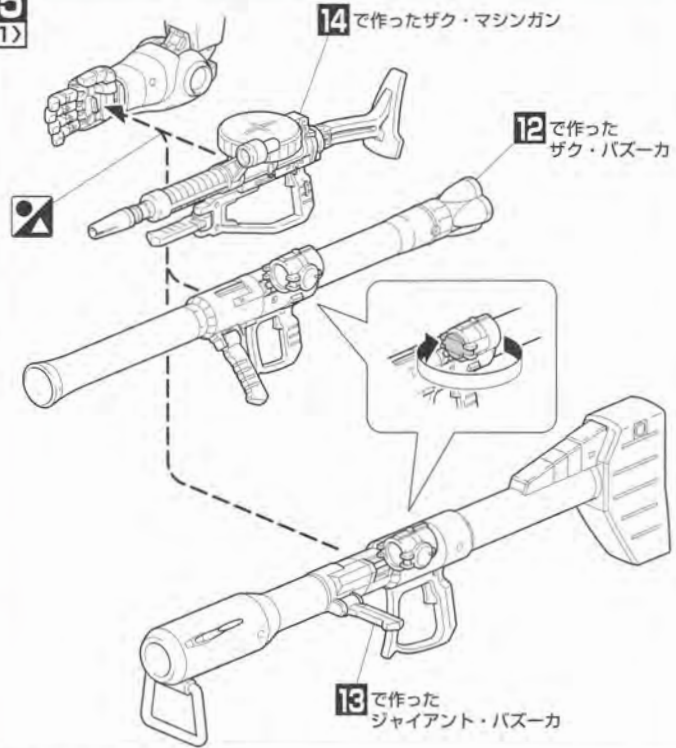
14 [ザク・マシンガンの組立]
(1) ZAKU MACHINE GUN



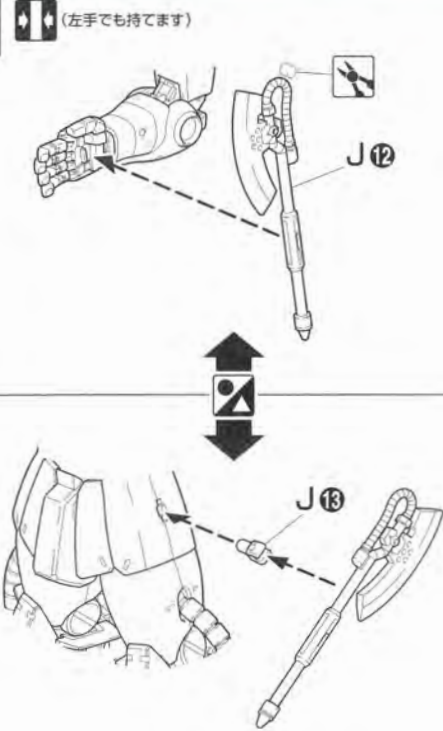
14
(2)



15
(1)



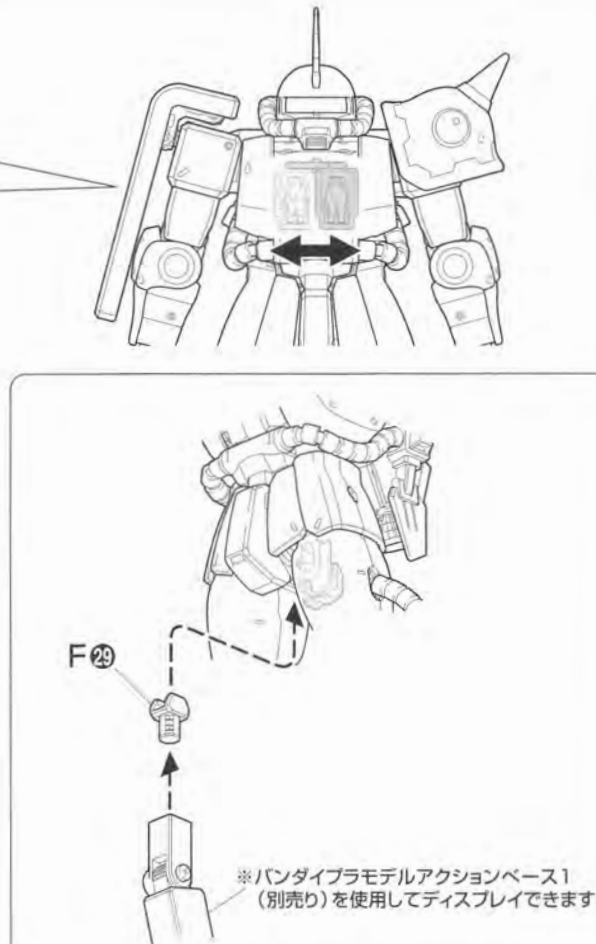
15
(2)



16 <コクピットの可動>

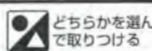
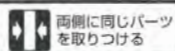
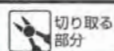


<コクピットハッチの開け方>



※バンダイプラモデルアクションベース1 (別売り)を使用してディスプレイできます。

※組立中の記号説明



Seal

<シール> 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

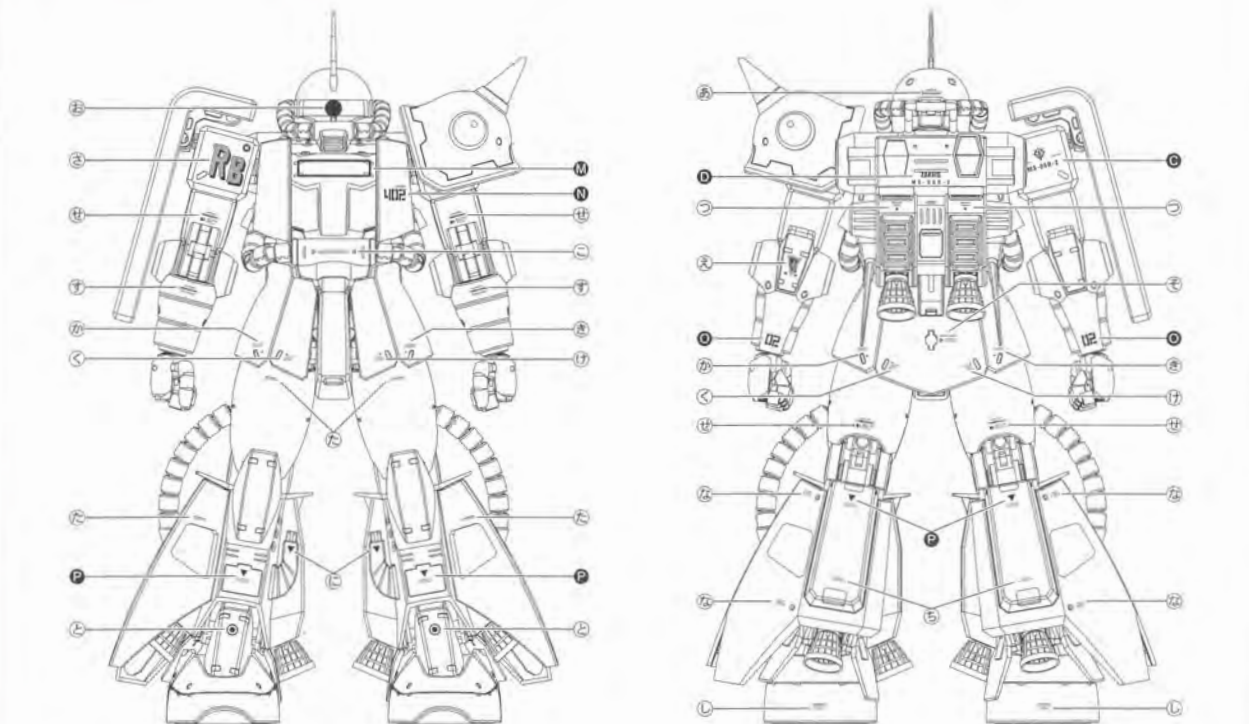
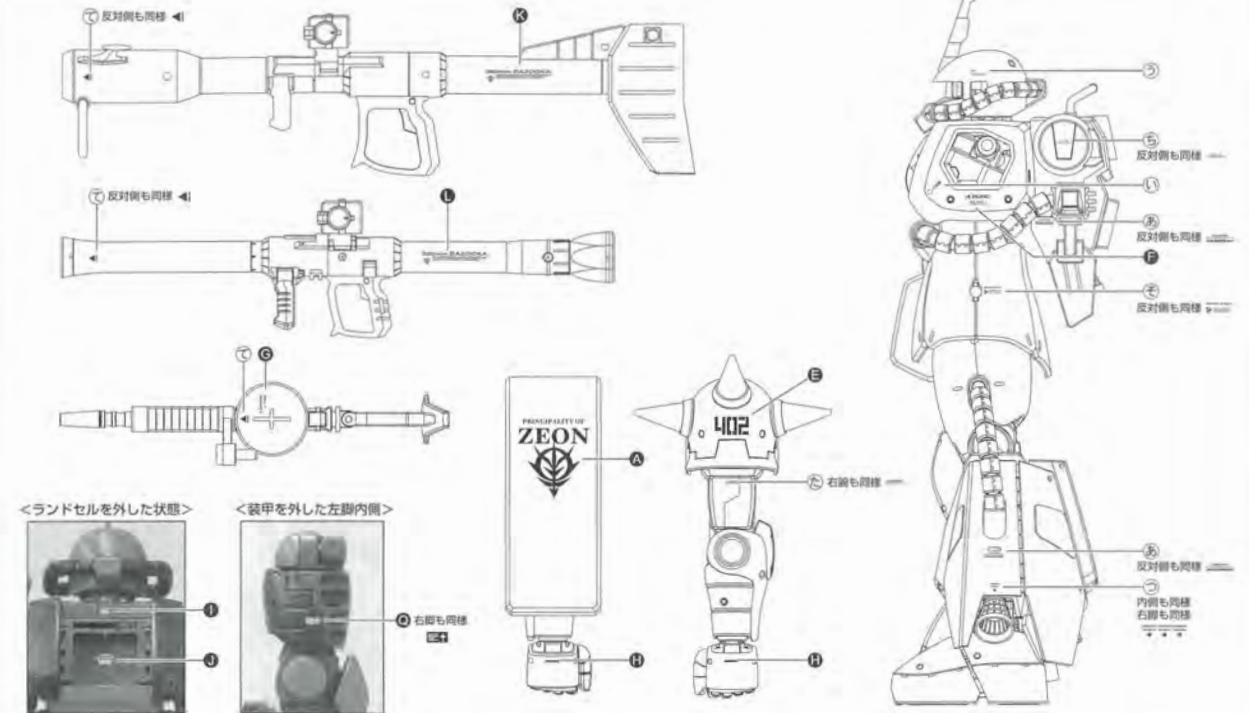
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。

【例】㊸・・・マーキングシール A・・・ガンダムデカール

【ガンダムデカールの貼りかた】

1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのものです。貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼って下さい。